

流域がつながる仕組みを活用して、河北潟流域の水辺保全活動を推進する地域産業を拡大する

活動地域  石川県河北潟

ひろげる助成

3年目

実践

シンポジウム参加者 **59**人

多角的な農業体験、調査活動参加者 **242**人

今年度計画の達成度 **80**%

全体計画の達成度 **85**%



ワークショップの様子

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

- 協議会について自治体の対応が定まらず、活動を進めるのに時間がかかった
- 自然体験活動で川に入ることができる場所がほとんどなく、実施場所を探すのに苦労した

■ 工夫した点

河北潟流域新聞では、一般の興味をひきやすい災害やゴミを大きなテーマとして制作した。

課題

河北潟の水質改善を目指し、保全活動参加者を増やし、また流域の観点からの取組みを進めるため、流域の組織的な仕組み作りや流域保全を進める産業作りが課題である。

目標

流域協議会を設立する。また流域での水辺保全活動参加者の増加、農業や化学肥料の使用を減らした圃場の増加、環境保全と調和する産業の推進を目標とする。

活動内容と成果

- 河北潟流域自然再生協議会の設立に向けて、ワークショップを5回実施し、延べ111人が参加した
- 自然再生協議会の運営をテーマにしたシンポジウムを開催、59人が参加し、協議会結成によるメリットや、協議会を継続する上での課題等について情報共有を行った
- 将来の保全活動を担う子ども向けの流域自然体験連続講座として「ジュニア河北潟流域レンジャー」を立ち上げ、全11プログラムを実施した
- 河北潟流域の自然環境の魅力や問題点、流域で活動する人等を紹介する「河北潟流域新聞」を2号作成した



田んぼでの農業体験

全助成期間の活動を振り返って

流域協議会の結成を目指した活動を進めたことで、流域の環境保全活動団体、農業団体、地元自治会等との対話、連携が進んだ。また農業体験、自然体験、生物調査、ゴミ調査等、多様な保全活動を実施したことで、実践活動への参加人数を大幅に増やすことができた。環境保全型農業に興味を示す農家はそこそこいるが、うまく参加につなげることができなかった。参加するメリットをわかりやすく提示し、今後の参加につなげたい。



田んぼでの生きもの調査

〒929-0342
石川県河北郡津幡町字北中条9番9
電話：076-288-5803
E-mail：info@kahokugata.sakura.ne.jp
HP：http://kahokugata.sakura.ne.jp/



今後の展望

2023年6月に河北潟流域自然再生協議会の正式な設立を予定している。子ども向けの連続講座を作ったが、これを定着、普及させることを目指したい。また今後は大人向けの連続講座もスタートさせたい。農業や化学肥料の使用を減らした圃場を増やしていく活動は今後も継続し、体制を整えて、生きもの元気米や河北潟流域農産物認証制度の普及、拡大を目指す。流域の団体と連携した保全活動や流域ツアーも引き続き進めていく。

